

編集後記

稲熊大城氏の論文はリンが老化に大きく関与している点を論じた。高リン血症が平滑筋の形質変化を起し、CKD、糖尿病、加齢、などが合併すると、血管系の石灰化を進め、心血管病のリスクを高くする。動物実験でKlotho knock-out miceが血管系の石灰化が著明のため早期に老齢化を来すものとして利用される。基礎的研究が進んでいることを示した。

今泉和良氏は成人の気管支喘息の診断と治療について、最近の動向を述べた。教育的な側面と各病態の最近の動向を述べ、重症の気管支喘息に、気管支サーモプラスティ: BTが行われることを述べた。この方法は非2型炎症の難治性例やType2炎症などについても適応される可能性がある点を述べた。

谷田論史氏の論文は潰瘍性大腸炎およびクローン病について生物学的製剤およびJAK阻害剤・顆粒球除去強化療法併用療法を概説した。これまで関節リュウマチや一部の膠原病で顆粒球除去強化療法が使用されたが、これが生物学的製剤およびJAK阻害剤が出現したため顧みられなくなっていた。このたびこの分野で復活したことなどを指摘した。

川畑信也氏は高齢者のてんかんとみられる症状と認知症の睡眠障害に関するものである。認知症との鑑別が一見困難なてんかんは①側頭葉てんかん、②一過性てんかん性健忘と、てんかん類似の③一過性全健忘、④認知症の睡眠行動障害の薬物治療を解説した。高齢者に関する改正道路交通法についても掲載した。

我々査読委員会は、国内的にも国際的にも通用するためには厳しい査読に努めている。ここに掲載された論文は厳しい査読に耐えたものだ。明日の臨床に載る論文は医学中央雑誌にも掲載されている。各位の投稿をお願いしたい。

(編集委員長 池山 淳)

編集委員 (50音順 *印委員長)

池山 淳* 粥川 裕平

平井 長年 松本 美富士 三浦 義孝

明日の臨床

Vol. 35 No. 1

2023年2月15日発行

編集 明日の臨床編集委員会

発行所 愛知県保険医協会

〒466-8655 名古屋市昭和区妙見町19-2

☎(052) 832-1345

制作 (株)東海共同印刷

頒価 1,000円・発行部数 7,000部